

令和2年度
(第31期)

事業報告

社会福祉法人AJU自立の家



目次

・令和2年度を振り返って	1
・福祉ホーム	2
・デイセンターサマリアハウス	3
・自立生活体験室	4
・マイライフ	5
・マイライフ西	7
・マイライフ刈谷	8
・自立生活情報センター サポートJ	9
・わだちコンピュータハウス	10
・ピア名古屋	12
・小牧ワイナリー	14
・昭和区障害者基幹相談支援センター	16
・相談支援事業サマリアハウス	18
・マイプラン・ケアマネジメントセンター	20
・名古屋マック、TYM、ピートハウス	22
・社会啓発・社会貢献事業室	25
・アジア障害者支援プロジェクト	27

令和2年度を振り返って

社会福祉法人 AJU 自立の家

常務理事 江戸 徹

令和2年度は、昨年度から続く新型コロナウイルス感染症拡大の動きから、法人運営や組織体制、さらには一人ひとりの心身にかかる負担など、さまざまな所に影響を及ぼし、翻弄され続けた年となりました。

通所サービスを利用される方は体調管理や行動制限、密にならない環境の配慮等を徹底し、通所を控える方へはスタッフが訪問による支援の実施、また就労系においては、在宅ワークが可能な人達はリモートによる会議等への参加といったスタイルに切り替えて運営を続けました。ヘルパー派遣事業においては、まず利用者やご家族に対し、感染予防の対策として外出自粛の協力を得るとともに、感染者が出た場合を想定した対策の検討や、実際に感染者が出た場合、支援の継続提供することを想定した感染予防グッズの用意・支援マニュアル作成や周知など、万が一に備えるために職員のみならず、登録ヘルパーの皆様にも感染対策の理解をしてもらい、準備を徹底してきました。これらの感染対策への取り組みは、現在も緊張感を持ちながら継続しております。

みなさんの理解と日々の努力の甲斐もあって、おかげさまでAJU自立の家としては、未だ一人の感染者も出すことなく、障害者が地域で安心・安全に暮らしていけるための支援を継続することができております。ただ、先にも述べました通り、生産活動の縮小、ヘルパー確保に向けた取り組み、各イベントの中止など、我々が目標として掲げていた活動の多くが実施できておらず、非常にもどかしい日々が続いております。

また、今年度は「意識改革と組織改革」の最終年度でした。これまで進めてきた改革の分析と改善を続けていき、ミッションに基づき社会の中で最も弱い立場にある人を支え続けられる「組織と人」を次世代のメンバーを中心に育ててまいります。また、3年間の経営健全化計画については、社会的に厳しい状況下ではありますが、各部、各部署の多大な赤字縮小努力によって法人全体で大幅な改善が達成でき、経営健全化計画の3年後目標を上回る結果となりました。特にマイライフ西、マイライフ刈谷、ピア名古屋は予想を上回り健全化に大きく貢献しました。小牧ワイナリーについては事業運営上の課題が浮き彫りになってきたため、次年度以降、集中的に改善の取り組みを行います。

次年度は、これまで約30年にわたり念願であった、多機能型新施設『AJUリカバリーセンター・フェロー』が、ようやく今年8月予定で開所する運びとなります。今までたくさんのご支援、ご協力をいただきました皆様のお力添えによって実現することができましたこと、心より感謝申し上げます。

ただ、この建設自体が到達すべき目標としてはなりません。ようやくスタートラインに立てたことをしっかりと自覚する必要があります。大切なのは、この先10年後20年後、たとえ今よりも厳しい社会であったとしても、重度障害者が自分らしく社会の一員として当たり前で暮らしていける世の中を開拓し続けること。これを我々の使命として、事業活動が継続していけるよう取り組んでいきます。

福祉ホーム

I. 総括

多くのことが制限される中、様々な環境にある障害者に対し、新しい形での支援を模索し続けました。障害特性の多様化や若年層のデリケートな世代を含め、少なからず制限のある生活の中でストレスを感じながら、入居者がお互いを理解する気持ちを持ちながら地域移行に向けて取り組みました。

II. 事業の実施状況

1. 令和2年度の目標達成のための具体的な行動

①「障害者の下宿屋」の理念継承

- ・感染防止が求められるなか会食など人との接触を避けつつ如何に理念を継承していくか試行錯誤しました。ただこれを期に新しい入居者に何を伝えるべきかを整理して、それをホーム退居者で地域生活している当事者から伝える機会を持つという取り組みを模索、継続しました。

②多様化する障害への対応の充実

- ・愛護手帳所持が2名、メンタルで継続して受診されている方が2名と昨年に引き続き身体障害以外の障害を併せ持つ入居者がいました。
- ・感染拡大により生活環境に少なからず変化のあるなかでの生活でしたが、なるべくスタッフを固定させてのコミュニケーションを図るなど不安を増大させずに相談できるような支援体制を維持継続しました。

③若年層障害者に対する支援の在り方検討

- ・未成年者を含めて21歳以下の入居者が3名ほどいます。マイライフ3事業所、それにアクセルや生活塾、車いすセンターなどと連携を取りながら、その人がやりたいと思えることに向き合っているようヘルパーとの関係の調整や行政との交渉のサポートなどに努めました。

2. 今年度の入居・退居者

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居者	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	4
退居者	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	4

III. 継続課題

- ・感染予防を踏まえた上での地域生活に向けた経験を積むための機会の創出
- ・ロールモデルとなり得る障害者スタッフの発掘と育成を見据えた若年世代へのアプローチの強化
- ・自立生活体験室等を活用した複数年計画による若年層の入居者の増加及び維持

デイセンター

I. 総括

コロナ禍の中、生活圏域の制限はあったものの新たなツール、方法（ICT 活用）利用に挑戦しながら、できることをみつけ活動を展開しました。

II. 事業の実施状況

1. 令和2年度の目標達成のための具体的な行動

- ①活動の場をひろげていく企画
 - ・コロナ感染対策を念頭に、活動毎の実施人数、外出可能な場所、調理の工夫などを話し合い、提案した上で選択してもらい実施します。デイメンバー同士のつながり、実習対応なども zoom、Skype、LINE を利用して対応開拓、挑戦を試みました。
- ②重複・重度の障害者が個々のペースで主役になれる企画の提供
 - ・ドライブ、買い物、外出散歩、実習生対応、講師派遣事業の交流会、勉強会、センター企画に参加など、個々に好きな活動、強みを生かした活動を展開しました。
- ③地域社会生活を送るための社会参加・地域交流の機会の創出
 - ・感染対策を強化し、外部との接触、交流を制限したため、従来の子ども食堂、サタディクラブ、ボランティア連絡会参加などの社会参加、地域交流の場を設けることができませんでした。

2.

	開所日	来所のべ人数	平均利用者数	給食サービス	送迎サービス
月平均	25.5 日	294 人	11.5 人	51.5 食	107 人
目標／達成率	—	327 人／90%	12.6 人／91%	208 食／25%	目標値未設定

※調理スタッフの休業により 12 月まで給食提供サービスは未実施、弁当による食事介助は提供。

III. 継続課題

- ・多様な人々や社会と繋がり、経験を積める機会の創出
- ・デイメンバー同士で繋がり、活動を広げていく支援
- ・個々の障害特性、強みを生かし育み合う新たな実習プログラムの創出と活躍の場の提供
- ・支援学校等とコンタクトをとり、現デイメンバーがロールモデルとして若年層のデイメンバー開拓

自立生活体験室

I. 総括

利用待機者が増える中、在宅の方については最小限の人数、期間で実施しましたが、施設入所者については実施することが出来ませんでした。障害者本人へのアプローチに加え、各機関への事業周知を行いました。

II. 事業の実施状況

1. 令和2年度の目標達成のための具体的な行動

- ①施設・病院、親元等からの自立生活を実現するための第一歩となる体験の場作り
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策による緊急事態宣言をうけ、一旦利用の受け入れを中止しました。受け入れの再開にあたり、利用待機者リストや感染防止対策のマニュアル等を作成しました。利用と利用の間隔を一週間あけたことから、利用実績については伸び悩む結果となりました。
- ②関係機関への訪問による本事業の必要性と重要性の普及啓発、及びさらなる連携・関係の強化
 - ・社会情勢の比較的よい時期に、基幹相談支援センターを中心に計27回訪問、事業周知につとめました。またマイライフ刈谷の協力を得て、事業のPR動画を作成しました。四季自立体験プログラムについては、2月のみリモートにて企画を実施することができました。
- ③名古屋市・愛知県第5期障害福祉計画に基づく地域移行の実現
 - ・愛知県地域生活チャレンジ事業については、平成30年度の実績をもとに申請しましたが、愛知県緊急事態宣言をうけ中止となりました。2月実施予定のスキルアップ研修においても延期しました。

2. 利用実績

区分	実人員			小計	延日数			小計	実施件数			小計
	市内	県内	県外		市内	県内	県外		市内	県内	県外	
在宅	3	1	0	4	44	53	0	97	7	4	0	11
施設入所・病院	1	0	0	1	3	0	0	3	1	0	0	1
合計	4	1	0	5	47	53	0	100	8	4	0	12

III. 継続課題

- ・愛知県内施設入所者のための財源の不足
- ・ロールモデルとなる若手障害当事者の育成
- ・コロナ禍においての事業の受け入れ、及び周知活動

マイライフ

I. 総括

新規契約者は2名で、ホーム新規入居者3名への支援を行いました。新型コロナウイルス濃厚接触者に利用者3名がなりましたが、感染対策学習会等を開催しました。介護保険事業「共生型サービス」は、3年目を迎えワンストップサービスを目指し、新規利用者1名、計10名となり、順調に推移しました。

II. 事業の実施状況

1. 令和2年度の目標達成のための具体的な行動

①地域移行推進と職員の意識の向上

・体験室については、コロナ禍により事業休止の為進捗はありませんでしたが、ホーム入居者と個別に懇談し、望む生活を実現するために生活上の不安や悩みについて聞き取りを実施しました。

②障害の重度化に伴う対応（年齢による切れ目のない支援、ワンストップサービスの確立）

・加齢や生活環境の変化に伴いヘルパー利用が必要になり、1名と新規利用契約を行いました。また、現状のマイライフ利用者があと何年で介護保険の対象になるか個別精査を行いました。

③人材確保・育成方法の見直し

・大学のオンライン講義に対応するため、授業内で活用できる動画の作成を行いました。オンラインでのアピール6回、対面でのアピールを13回開催することができました。

・インターネット求人サイトを利用したことにより、男女計10名（男6・女4）の問い合わせがあり、うち女性2名は登録（内1名は既に活動）、男性2名、女性1名は重訪講座の受講につながりました。

④法令遵守を徹底し特定事業所加算のチェック体制と、より効率の良い派遣体制の構築

・各リーダーと勉強会を開催し、事業所運営に必要な書類の確認や、特定事業所加算の項目ごとに関係書類と照らし合わせ、記載事項についての理解を深めました。また、男女各チームMTにて、特定事業所加算Ⅲ要件のチェックシートを活用するなど、チェック体制を構築しました。

⑤新拠点整備に向けた当事者リーダーの育成（「中長期計画2019」地域間格差の解消と連動）

・自立生活希望者1名を訪問することができました。親が高齢化により認知症がはじまったこと等の相談を受け、体験室利用を含めた、アドバイスを行いました。また、3月にサマリアハウスに新しく入居される方に対して、ヘルパーの利用方法も含め、生活全般のサポートを行いました。

2. 派遣時間数

【障害福祉サービス】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
R元年度	16,645.0	17,468.8	17,012.8	17,620.5	17,507.3	17,145.0	
R2年度	16,621.8	16,991.5	16,259.5	16,673.0	16,441.3	15,749.3	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R元年度	17,267.3	16,889.3	17,226.3	16,676.3	16,152.5	17,581.8	205,192.9
R2年度	16,363.5	16,285.0	16,545.3	16,319.0	15,140.5	16,504.5	195,894.2

※前年度より時間数減となりました。体験室の利用が減少し、新しいニーズを発掘できなかった、重度化や加齢により入院利用が増えたためヘルパー利用時間数減等が要因と考えられます。また R3 年度地域生活モデル事業連携による新規利用者発掘に向けた準備を行いました。

【共生型サービス】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
R元年度	95.3	96.2	108.4	130.6	126.5	187.1	
R2年度	186.0	192.0	191.5	181.5	190.0	186.0	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R元年度	181.3	171.5	180.0	185.4	189.3	189.4	1,841.0
R2年度	181.0	179.5	182.2	187.5	182.3	184.2	2,224.7

Ⅲ. 継続課題

- ・サマリアハウスとの連携による障害者の地域移行推進
- ・高齢化・重度化に伴う方の派遣体制の維持、及びスタッフのスキルアップ
- ・コロナ禍における派遣体制の安定
- ・マイライフ3部署の連携による幅広い層の人材確保

マイライフ西

I. 総括

新型コロナウイルス流行の影響を受けながらも新規利用契約者1名、月平均派遣時間数412時間増（昨年比）と、支援の量を減らすことなく地域生活を送る障害当事者の生活を支援し、個々が感染予防対策を徹底した結果、1名の感染者も出すことなく、安定した支援体制をとることが出来ました。

生活塾との連携において、相互に定期的な会議に参加するなど、今まで以上に密な連携と情報共有、新たな体制づくりに努め、次年度からの新たな取り組みと体制を生み出すことが出来ました。

II. 事業の実施状況

1. 令和2年度の目標達成のための具体的な行動

①学生及び一般（嘱託を担えるような）ヘルパーを確保する仕組みの構築

- ・ヘルパー確保の仕組み作りとしてリモート、インターネットを活用し以下を実施した結果、年度人集め年度目標43名に対し、36名の新規登録者という結果に繋がりました。

【学生向け】学生交流会再開（4回） 授業アピール（4回） 卒業生を祝う会（1回）

【一般向け】indeed（39人問い合わせ、2名登録） 人づて（2名嘱託職員採用）

②地域移行を目指す障害当事者を支援するための新体制づくり

- ・生活塾とも協力しオンラインでのILPや面談を行いました。3名の当事者の地域移行に向け取り組み、5月には1名がサマリアハウスの体験室にて自立生活の体験予定を立てることができました。
- ・10月からは、生活塾の新体制構築に向けてマイライフ西も共同し、次年度実施予定の「たまり場プロジェクト（仮称）」にスタッフとして加わり、当事者支援に厚みを増しています。

③職員のスキルアップと充実したサービス提供及び登録ヘルパーの育成ができる体制の構築

- ・OJTを活用したきめ細やかな指導を毎月行うことで、トレーニーがトレーナーへと成長し次の職員の育成を行っています。

2. 派遣時間数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
R元年度	2,945.0	3,006.0	2,933.5	2,879.0	2,856.5	2,812.5	
R2年度	3,063.8	3,305.0	3,185.0	3,374.5	3,399.0	3,357.5	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R元年度	3,123.3	3,029.0	3,172.0	3,130.0	3,007.0	3,231.5	36,125.3
R2年度	3,534.0	3,475.0	3,687.5	3,630.5	3,352.8	3,713.3	41,077.8

III. 継続課題

- ・ヘルパー確保目標36名（男性：20名 女性：16名）
- ・生活塾スタッフ、職員を含めた個々の人間力を高める取り組み実施
- ・女性職員（嘱託含む）の体制づくり
- ・職場環境の整備

マイライフ刈谷

I. 総括

オンラインでの授業やイベント等で例年同様の新規登録ヘルパーと繋がることができました。女性職員の獲得に向けて動き、良い結果には至りませんでしたが一貫して取り組むことができました。新型コロナウイルスの影響で様々な制限はありましたが、今後のイベントの在り方、それぞれの役割分担の整理をすることができました。

II. 事業の実施状況

1. 令和2年度の目標達成のための具体的な行動

①仲間づくりの取組み強化

・自立生活センターアクセルは地域の啓発や交流を狙い、年度後半から「ゴミ拾い」「横断歩道の児童見守り」を当事者・健常者職員で活動を開始、6月に福祉ホームから刈谷市内に転居した男性利用者も積極的に参加し、交流の輪が広がりつつあります。

②利用者への支援の安定化

・福祉ホームに入居し、今年度大学に入学し、大学修学支援事業活用の女性利用者への支援をサマリアハウスや大学とも協議・連携を行いました。当初は大学との連携も課題が多数でしたが、本人の自立意識を高めることにもなり支援者が徐々に増えました。

③中長期計画策定への取組み

・年度初めに事業所の「責任・役割」を再編して明確化しました。6月には「5年後の夢」を全職員・嘱託に文章化させて、事業運営や中長期計画を「自主的意識」として、捉えられる意識・体制創りを進めました。ベテラン組男性2名も次世代の幹部としての位置づけを明確化し、次年度事業計画作成にも参画してもらいました。

2. 派遣時間数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
R元年度	3,201.0	3,266.0	3,249.5	3,338.5	3,387.5	3,268.0	
R2年度	3,676.0	3,782.0	3,760.0	3,724.0	3,914.0	3,802.0	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R元年度	3,282.5	3,240.5	3,470.5	3,353.5	3,326.0	3,481.0	3,9864.5
R2年度	3,856.5	3,825.0	3,808.5	3,784.0	3,636.0	3,963.5	4,5531.5

III. 継続課題

- ・仲間づくりの取組みの強化
- ・利用者への支援の安定化
- ・中長期計画策定への取組み

サポートJ講師派遣事業

I. 総括

活動が全体的に縮小傾向にある中でしたが、状況の変化に合わせての取り組み方を始め、講師派遣に活用しました。また新たな役割として、今年度から大学、専門学校の実習生受入れを担当させていただ事が出来ました。

II. 事業の実施状況

1. 令和2年度の目標達成のための具体的な行動

①目標達成のための派遣

- ・派遣目標件数 302 件 今年度 82 件 前年比 27%

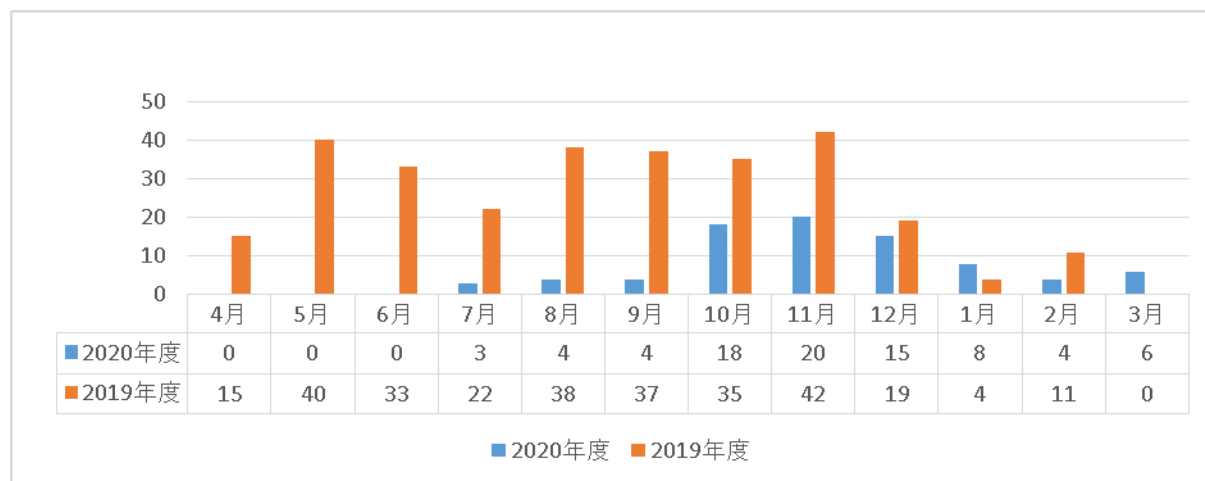
②協働体制で新たな試み

- ・感染予防策を踏まえて、講師派遣事業の新しい伝え方としてわだちコンピュータハウスと協働でオンラインにて対応しました。

③協働体制で新たな活躍の場

- ・新たな取り組みとしてサマリアから実習生受入れを引き継ぎました。大学、専門学校の実習生受入れ講師派遣事業として新しい担当窓口となり、当事者の活躍の場として活性する要因になりました。

2. 月別講師対応数 前年度比



III. 継続課題

- ・新たな講師（人材）の育成
- ・講師派遣先の確保
- ・わだちコンピュータハウスと講師派遣事業との協働体制の構築

わだちコンピュータハウス

I. 総括

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、当初の目標の変更を余儀なくされたが、施設運営面では所員の在宅就労、生産活動面ではオンラインでの業務請負等を推し進めることで、当初予算に近い売上目標を達成し、所員の経済的自立を維持することができました。また、令和3年度からの所長交代にあたって引継ぎを継続的に実施しました。

II. 事業の実施状況

1. 令和2年度の目標達成のための具体的な行動

①施設会計および授産会計の経営の安定（「2. 事業の達成状況」参照）

- ・令和2年度はコロナ禍もあり補正予算で売上目標を3,570万円に下方修正しましたが、実際の売上高5,643万円でした。ただ、前年度売上高より約1,900万円の減収でした。
- ・5月の利用が極端に下がっていますが、その後、在宅就労が認められ、所員が安心して就労できる体制を確保したことで利用実績を伸ばすことができました。

②ユニバーサルデザイン業務の推進

- ・コロナ禍の中、多くの業務が取引先都合でキャンセルになりましたが、オンラインでの会議開催などの提案を通じて一部業務は受注できました。

③コスト感覚のチェック体制の確立

- ・アルバイトへのタイムカードの導入、給食の当日キャンセルを減らす措置、冷暖房・電灯のオン・オフの徹底等を通じて、コストチェックを実施しました。

④人材育成とスキルアップ

- ・障害者講師派遣に対応できる所員の教育、スタミ嘱託版の開催等を通じて、全体のスキルアップを図りました。

⑤事業継続計画（BCP）の推進と具体策の実施

- ・わだち内のBCPについては職員全体での話し合いによるスパイラルアップを行いました。また、AJUグループ全体に対しても令和3年度の制度改定の情報提供を通じて、BCP策定の推進を図ることができました。

⑥営業体制の刷新

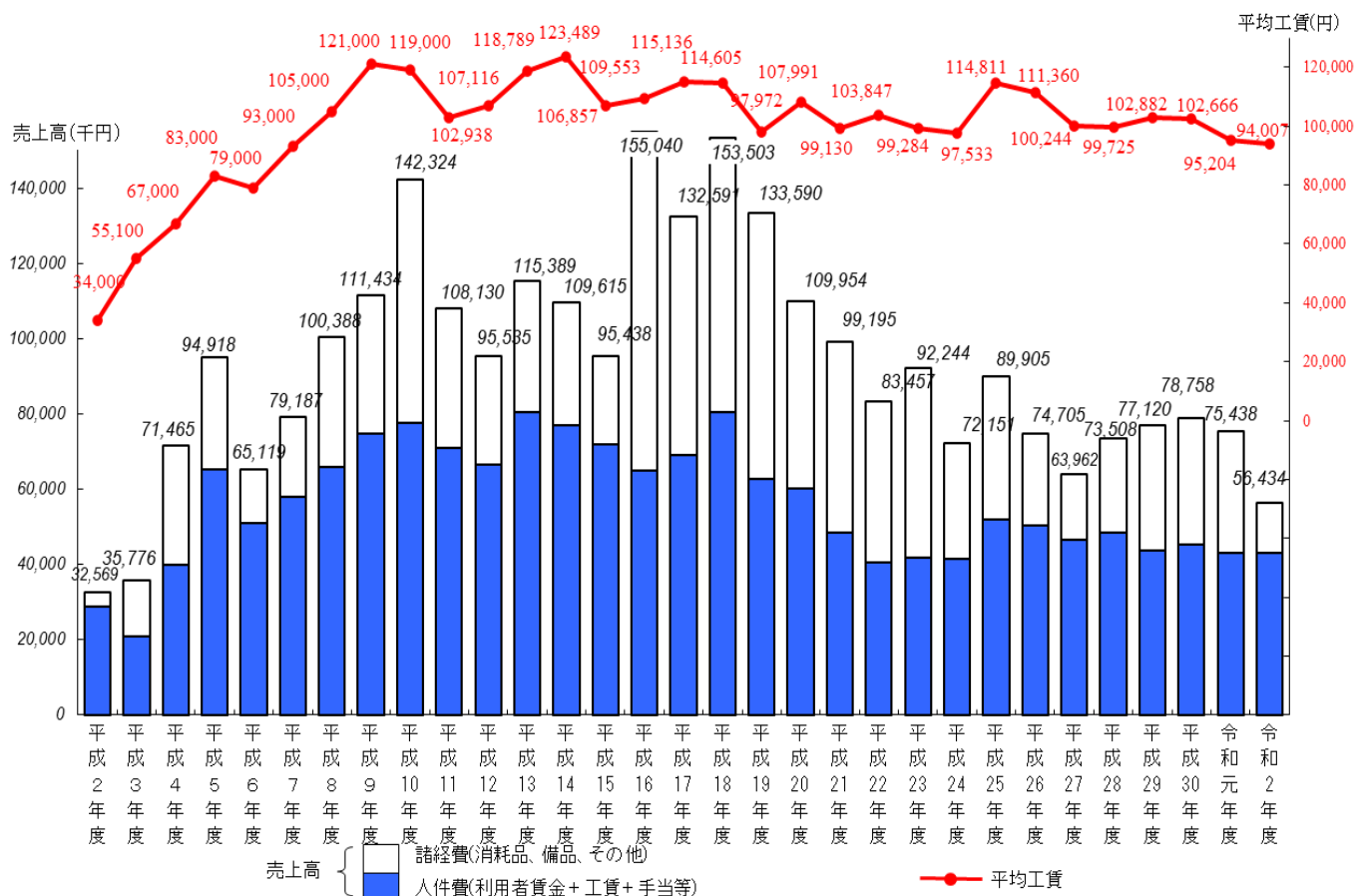
- ・コロナ禍もあり受注業務の減少もあったため、新規事業を勝ち取るための営業会議について検討しました。令和3年度から開始し効率的な営業体制の構築を目指します。

⑦施設および業務インフラの整備

- ・コロナ禍を受けて、所員が在宅でも安心して仕事ができるようテレワーク環境を整備しました。

2. 事業の達成状況

(1) 売上高と平均工賃



(2) 利用実績

<延べ人数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
就労A型	177	147	186	178	145	172	194	166	172	150	153	180	2,020	168.3
就労B型	296	230	410	400	321	377	428	375	381	346	345	431	4,340	361.7
生活介護	40	16	138	130	109	128	123	115	102	99	95	127	1,222	101.8
計	513	393	734	708	575	677	745	656	655	595	593	738	7,582	631.8

開所日	25	23	26	25	20	24	27	23	24	22	22	26	287	23.9
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	------

<1日あたりの平均利用者>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
就労A型	7.1	6.4	7.2	7.1	7.3	7.2	7.2	7.2	7.2	6.8	7.0	6.9	7.0
就労B型	11.8	10.0	15.8	16.0	16.1	15.7	15.9	16.3	15.9	15.7	15.7	16.6	15.1
生活介護	1.6	0.7	5.3	5.2	5.5	5.3	4.6	5.0	4.3	4.5	4.3	4.9	4.3
計	20.5	17.1	28.2	28.3	28.8	28.2	27.6	28.5	27.3	27.0	27.0	28.4	26.4

III. 継続課題

- ・ 目的・使命に即した営業戦略の練り直し、新規事業の開拓、利益率の向上。
- ・ 新規業務・既存業務を担える人材の育成・発掘。
- ・ 在宅就労も織り交ぜることを通じて所員の利用日数のさらなる増加。

ピア名古屋

I. 総括

様々な重度障害がある人達へ「日中の居場所」「働く場」としての役割を果たすため、コロナ禍により様々な活動制限はあったものの、仲間への個別支援、福祉用具販売や通所における環境整備の工夫など状況に合わせた対応を心掛けた結果、年度当初に掲げた目標はおおむね達成することができました。

II. 事業の実施状況

(1) 目標 1日平均利用者数7.5名、介護給付費等補助金28,650千円、重度心身障害者補助金6,700千円の達成

① お客様・体験室利用者・関係者の知り合いなど日中活動をしていない人にアプローチを行い、新規利用者の獲得を目指す。

・平均利用者数及び介護給付費、重心補助費が年度目標を達成しました。

① コロナ禍でも安心して活動が続けられるように環境を準備することで、自分らしい生活ができるようにする。

・通常開所後は以前から行っている換気や業務時に距離感を取ることに加えて、朝の混雑時を避けての仲間の時差出勤、昼食時の席の分散といった措置を講じると共に、不安感を抱く仲間には継続して傾聴・相談を行いました。

① 多様なニーズに対応できる研修・勉強会に参加し、質の高い支援を行い利用拡大につなげる

・コロナ禍に伴い、研修・勉強会への参加はできなかったものの、継続的に情報の収集は行ってきました。

・年間を通してOJTの振り返りを確実に行うことが出来ました。

(2) 目標 福祉用具販売売上 41,630千円の達成

① 年度の締めを意識して販売・修理のニーズを掘り起こし、迅速に対応する

・修理スタッフ増により訪問・来所されるお客様のどちらにも対応できる体制を整えました。

① お客様の情報を可視化し、新たな福祉用具の提案ができるようにする

年度末に向けて、担当と連携して支給券の回収漏れや、比較的時間のかからない修理のニーズがないか確認を行いました。

① 曜日を決めて確実なルート営業を行う

コロナ禍のため、ルート営業を控えている時期もありました。

(3) 目標 工賃支払目標(15名)35,900円/月の達成

① 工賃支払いを継続するため障害状況や環境に合わせ、今できることを意欲的に取り組めるような機会を提供する

・仲間にはお客様への納品や修理対応の連絡調整、事務作業、区役所への書類配達、買い物なども役割として担ってもらっていました。

【利用実績】

	開所日	来所のべ人数	平均利用者数	昼食サービス
年間合計	287日	2,234人	7.8名	1,378食
昨年度実績	283日	2,016人	7.2名	1,339食

【施設収入、福祉用具売上、工賃支払一覧】

	今年度実績	目標金額	達成率	昨年実績
介護給付費等補助金	30,923,540円	28,650,000円	107.9%	28,421,462円
重度心身障害者受入補助金	7,580,400円	6,700,000円	113.1%	6,682,500円
福祉用具売上額	42,578,153円	41,630,000円	102.2%	46,216,880円
工賃支払額	5,977,533円	6,462,000円	92.5%	6,153,782円

※工賃支払額については、年度途中で新しく3名の仲間が増えたこと、加えて自主休業等で通所利用が控えられたことに伴い、支給する手当が減少となったため平均工賃額も低くなり、結果として全体の支払額が下がっております。

Ⅲ. 継続課題

- ・コロナ禍における知的障害・発達障害がある仲間に対する支援
- ・加齢による障害の重度化に対する支援の在り方、工賃の在り方

小牧ワイナリー

I. 総括

利用者の減少と新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、売上が大幅な減少となりました。

II. 事業の実施状況

1. 令和2年度の目標達成のための具体的な行動

①目標：ワイン事業の収益強化、販路の拡大

・特徴ある商品開発：

新AUワインの輸入販売（2種類）、小牧醸造ワインと輸入ワインを混醸した商品「PEER WINE」の生産販売開始、家飲みワイン&缶つまのセット販売、小牧城信長ワインの再発売といった収益強化を実施。加えて、ワインゼリー（食べるワイン）の新商品開発を実施。

・イベント中止等の減収の挽回：

ネット販売サイト（オンラインショップ）の開設、販売先や取引先（個人、企業、団体、等）へDM郵送、イベント販売可能な催事へ積極的に参加して出張販売（計5回）、ワインの樹の会の役員や農業ボランティアの皆様と一緒に葡萄収穫（小牧圃場）イベントを実施。秋口（10月と11月）に小規模イベント「キッチンカーDAY」（開催場所：小牧ワイナリー）を開催（計4日間）。

・HPやSNSの活用、団体客の獲得：

販売ワイン、圃場の様子、所員の作業風景、などのワイナリー情報の周知。（掲載実績は、公式HP＝31回、facebook＝134回、instagram＝61回）

②目標：圃場の整備、自家醸造ワイン生産体制

・品質の良い収穫量増加、特徴あるワイン生産の基盤整備：

芽欠き作業にも初挑戦してもらう所員や職員を増やし、作業量に対応できる圃場体制を構築。異常な長雨と雨量が続き、日照時間も不足、低温や湿度の高い状態が続き、生育や病害発生に影響が出た。（降水量は昨年比1.5倍、平年値比2.2倍）梅雨の晴れ間に葡萄の袋掛け、笠掛け、草刈作業、副梢管理、農薬散布に重点を置き、畑作業を実施。猛暑も続き、夜温が下がらず、糖熟が高まり難しい気候条件となったが、小牧圃場は何とか踏ん張る事が出来き、収量が約5.6tに増加（昨年比の約1.2倍）。冬場は圃場整理を実施（収穫の見込めない圃場・樹木や老木は伐採抜根）。

③目標：仲間の就労・生活支援

・生活の中での就労の形をニーズに沿って提供：

新規入所2名（男性1名、女性1名）、退所5名（男性5名、女性0名）となりました。新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言を受け、公共交通機関の利用自粛、送迎時間を遅らせる、作業時間短縮、等の危機回避体制を実施。所員3名が在宅就労を実施（初の試み）。所員のモチベーション維持や社会経験の場所づくりの為、慰安旅行（1泊2日）や外出企画（計1回）を実施。

2. 事業の達成状況

・自立支援給付費収入

利用人数	開所日数 ／利用者 出勤日数	平均 出勤日数	平均 利用者数	延べ利用者数 ／前年度比	自立支援 給付費収入 ／前年度比	給食利用 延べ人数	送迎利用 延べ人数
就労継続支援 B型 29.9人	350日 ／269日	16.4日	22.3人	5,990人 ／91.1%	6,274,081円 ／77.37%	5,774人	9,769人
生活介護 5.0人	245日 ／245日	10.6日	2.7人	647人 ／69.0%	46,551,516円 ／94.21%	634人	1,190人

・利用者の状況

利用者数 定員 40人（生活介護 6人／B型 34人） 現員（生活介護 5人／B型 28人）

工賃の支払額 賃金平均額（新人 2名除く）

平均工賃額／前年度比	支払総額／前年度比
39,781円／88.67%	15,833,033円／88.01%

・ワイン等の売上状況

（1）売上額 23,808,418円（売上総額 24,734,428円、値引等 -926,010円） 目標達成率 105.11%

店舗：カフェ・ショップでの対面販売 店舗外：電話・インターネットの通信販売、卸、催事等

合計 (単位：円)		ワイン			飲食・物販			会員 特典	値引
		ピア	小牧	輸入/その他	お土産	カフェ	その他		
店舗 前年比	6,238,313	453本	2,280本	41本	3,313品	359品	1,359品	695件	0件
	43.98%	638,363	3,856,735	128,552	1,299,880	139,328	382,520	-207,065	0
店外 前年比	17,570,105	1,680本	6,490本	576本	1,004品	0品	2,476品	0件	1,009件
	52.98%	2,889,825	9,467,872	1,369,052	562,767	0	3,999,534	0	-718,945
		128.71%	66.57%	14.80%	52.12%	3.21%	63.15%	49.72%	－%
		65.38%	53.40%	24.23%	31.21%	－%	65.03%	－%	28.29%

（2）年間売上目標に対する目標達成率（単位：円）

合計売上額 ／前年度比	年間目標額	目標達成率	備考
23,808,418 ／50.28%	58,293,000	40.84%	当初目標
	27,080,000	87.92%	一次補正後
	22,650,000	105.11%	二次補正後

Ⅲ. 継続課題

- ・近隣の支援学校や行政、社会福祉協議会等との連携から、利用者の増加を目指す
- ・生産の安定や品質の向上、計画的な情報提供や各種案内の充実に努め、売上の増加を目指す

昭和区障害者基幹相談支援センター

I. 総括

令和2年度は自立支援連絡協議会の再編を中心に行い、昭和区での各事業者間での連携強化や所属職員個々の資質向上を目標とした。協議会の再編は行えたが、各事業者への情報提供や求めるニーズの吸い上げについては十分に行えなかった。また個々の資質向上についても、事業部内での勉強会を下半期は行えず、オンラインで再開された研修会等に個々で出席するにとどまった。経営健全化について、事業所としての収入増加であったが、支出面での増加も伴い、結果として目標達成はできなかった。

II. 事業の実施状況

1. 令和2年度の目標達成のための具体的な行動

①連携強化（協議会の再編成）

- ・令和2年度より自立支援連絡協議会の活動の活発化を目指し部会を再編した。感染拡大防止の観点から、下半期の事業者部会は中止となった。

②最後の砦としての機能

- ・専門員の資質向上について、上半期は事業部内での勉強会を継続したが、下半期はできなかった。各自が再開されたオンラインでの研修等に参加するに留まった。

③地域移行と自立支援

- ・年間を通じて未成年・成年問わず、相談を受け具体的に支援をすることが出来た。利用者の年代や直面する課題に応じた知識や情報が常に必要であった。

④利用者主体の支援と経営の健全化

- ・計画相談件数は当初計画よりも増加。利用者毎に異なるニーズを確認しながら支援を行ってきた。

⑤調査における正確な聞き取り

- ・認定調査件数についても、当初計画よりも増加。調査において利用者に困りごとを確認し、虐待の発見や担当相談支援事業所との調整を行ってきた。

2-1. 相談支援を利用している障害者等の実人数

	実人数	身体	重心	知的	精神	発達	高次脳	その他
障害者	131	61	0	40	38	4	3	1
障害児	9	2	1	5	0	1	0	0
計	140	63	1	45	38	5	3	1

2-2. 支援内容・方法

	福祉サービス	障害理解	健康医療	不安解消	保育教育	人間関係	家計経済	生活技術	就労	社会参加	権利擁護	その他	計
訪問	1281	6	159	41	0	20	141	253	1	12	13	9	1936
来所	733	9	95	223	0	10	40	120	6	17	8	3	1264
計	2014	15	254	264	0	30	181	373	7	29	21	12	3200

2-3. 昭和区自立支援連絡協議会

総会	部会	全体研修会	その他	計
1	25	1	1	28

2-4. サービス利用計画、認定調査、配食サービス

計画相談 契約利用者数	サービス 利用計画	継続サービス 利用支援	障害支援区分 認定調査	配食アセスメント
34件	42件	110件	217件	12件

Ⅲ. 継続課題

令和2年度に自立支援連絡協議会の再編を行ったが、実際の活動はほとんど行えず、各事業者への情報提供が滞った。対面でのコミュニケーション機会の確保ができなかった。

複合的課題をもつ事例が増え、地域・行政・民間事業者を問わず連携が必須となり、基幹相談支援センターをより知っていただく必要性ができてきている。

令和2年度の収支は赤字であった。収入増となる構造転換が急務。

相談支援事業所 サマリアハウス

I. 総括

令和2年度は主体性の尊重と生活全般の把握、情報共有や連携強化、そのための資質向上を掲げ、判断に迷うことなく当事者の希望と必要に即した支援を常に念頭に置いてきた。勉強会やネットワーク会議に参加し、特に虐待ケースの支援や意思決定支援など、研修で得たことをそのまま現場で役立たせることができた。

新たに自立生活援助事業の立ち上げ。また、相談員増（最終3.3人）により新規の問い合わせにも応じやすくなり、相談員同士で連携強化し、一人ひとりにより時間と余裕を持って向き合うことができた。

II. 事業の実施状況

1. 令和2年度の目標達成のための具体的な行動

①当事者主体：利用者主体が尊重される環境整備

- ・事業所内ミーティングの場や相談員同士でケースでの支援内容を共有する場面や行政折衝など折に触れて利用者の主体性が守られているかに着目、維持してきた。

②支援強化：A J U自立の家関係者への支援強化

- ・自立生活援助事業を開始。福祉ホーム退居者を対象とし、サマリアハウスとも連携し準備をした。7月に利用者3名で開始後は受診時の同行、近隣住民とのトラブルなどに対応した。半年経過した時点で利用対象者について再検討を行った。
- ・65歳を迎え介護保険制度利用に向けて円滑な移行を図るため情報提供書を作成。保健センター等他職種も参加しての引継ぎも情報提供書を利用しスムーズに移行できた。

③資質向上：勉強会や研修会に参加しスキルアップ

- ・オンラインでの勉強会には、法人内外できるだけ機会を得て積極的に参加した。部内勉強会で「憲法」、「意思決定支援」、「無料定額宿泊所」、外部研修にて「医療的ケア児等のコーディネート」など、内容は多岐にわたった。
- ・1か月1名の利用者増を目標としてきたが、毎月1名から最大7名、年間40名の新規契約という成果を出すことができた。ただし解約者が8名あった。
- ・利用者一人ひとりへの柔軟な相談支援では、通院に同行し本人が伝えきれない部分を補足するなど、主体性を視点においたフォローに努めた。また、サービス導入以前に転入転出の準備として引っ越しや掃除の手伝い、家探し、インフォーマルサービスへのつながりなど、本人の希望の尊重と同時に関係づくりとしても奏功した。

④連携強化：利用者が主人公になれるよう関係者との連携

- ・区の協議会では相談コンパの幹事を務め、65歳問題や虐待の事例検討会を行った。

- ・昭和区障害者虐待防止支援ネットワーク会議に参加。虐待ケースについて虐待防止センターや行政も交えた話し合いを行い、結果として区役所としても初めての新たなサービスの利用にこぎつけた。
- ・利用者が他機関と面談する際に同席、通院に伴い主治医とつながりアドバイスをもらうなど、相談員の知識として領域も増え、本人にとっても風通しのよい関係づくりの一助となった。

2. 利用者数等の分布

①相談の手段

	身体	知的	精神	発達	難病	障害児	合計
電話	767	778	1,024	80	47	75	2,771
来所	386	206	307	20	2	5	926
訪問	364	199	289	20	4	22	898
合計	1,517	1,183	1,620	120	53	102	4,595

(前年度比 963 件増)

②支援内容

	身体	知的	精神	発達	難病	障害児	合計
福祉サービス利用について	826	702	913	81	11	74	2,607
その他	521	375	525	25	42	29	1,517
合計	1,347	1,077	1,438	106	53	103	4,124

(前年度比 501 件増)

③計画相談の実施状況

	身体	知的	精神	発達	難病	障害児	合計
利用計画(案)作成	64	37	52	2	1	6	162
利用計画書作成	68	51	56	5	0	7	187
モニタリング実施	241	132	151	9	5	13	551
合計	373	220	259	16	6	26	900

(前年度比 191 件増)

III. 継続課題

- ・利用者主体が尊重される環境づくり
- ・A J U自立の家関係者への支援強化、関係機関連携強化
- ・勉強会や研修会に参加しスキルアップ

いずれもある程度の成果はあるものの、さらに向上させるため継続していく。

マイプラン・ケアマネジメントセンター

I. 総括

高齢障害者を対象とした介護保険分野では感染リスク軽減に努めた訪問・相談を続けてきました。事業計画上、下半期は1.5名の人員での活動予定でしたが、1名での活動となり、結果在籍職員への負担過重な半年となりました。その中でも医療依存度が高い利用者率が高まる中、対応してきました。日常生活自立支援事業では、支援の中心となる新しい支援員の要請に努めた1年でした。

II. 事業の実施状況

1. 令和2年度の目標達成のための具体的な行動

介護部門

①医療系サービスとの連携を強化

・医療的なケアが必要な利用者が徐々に増加してきている。各事業所との定期的な連絡を取ることで、利用者への安心を確保できたと思う。

②令和3年度改定情報の収集

・令和3年に入って以降、具体的な情報が徐々に出てきたため、毎月の訪問時に対象となる利用者への情報提供をしてきた。同意が必要な書類については比較的早い段階で利用者からもらうことが出来ている。

③新規ケアマネジャーの獲得

・年度前半から募集をかけたが採用に至っていない。法人内で資格取得した方を令和3年度後半に採用する方向で検討している。

日常生活自立支援事業

①全員体制

・相談支援事業部全員で生活支援員を担当できるよう目標設定したが、結果3名は担当を持つことが出来るようになった。ただ、部署により人員不足があり、結果として全員が行えるような体制作りまではできなかった。

2. 年間利用者数

①介護保険部門 要介護には要支援含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護利用者数	59	62	58	62	59	59	53	55	54	57	51	55
総合事業利用者数	6	7	7	6	6	5	5	5	4	5	5	5

②日常生活自立支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	19	19	19	19	19	20	20	18	18	18	18	19
待機者数	2	2	2	2	2	1	1	0	0	0	0	0

Ⅲ. 継続課題

①介護部門

- ・令和2年度は4月と10月に担当者が法人側の都合により交代し利用者に対して大変迷惑をかけた。そのため、利用者の満足度が下がった可能性があると思われる。
- ・また、緊急時や災害時における不安も現状払しょくできていない状況と思われたため、令和3年度は非常時事業復旧計画策定を通じて、情報整理を行い利用者への安心を届けたい。

②日常生活自立支援事業

- ・従来の専門員の人事異動により、正式な専門員を固定できない状況が年間を通じて発生。
- ・登録利用者が事業所より遠方の方が増加してきており、1回の支援においてより時間や経費が掛かるようになった。

名古屋マック

I. 総括

前年度は平均利用者の数字が低かったので、入所した利用者を途中退所しないような取り組みを行い、利用状況を改善する事が出来ました。新しい職員も与えられた業務が出来るようになってきました。多機能型施設は建設も進み、週一回の現場での定例会及びフェローミーティングを行い開所に向けて準備を行いました。

II. 事業の実施状況

1. 令和2年度の目標達成のための具体的な行動

① 平均利用者数を13人にする

- ・コロナの影響でメッセージが行われなくて見直しは出来ませんでした。
- ・八事病院にメッセージの受け入れを申し込みましたが今回は見送られました。その後も連絡は頻繁にある事から様子を見て再度申し込みます。
- ・絃仁病院に院内プログラムを作る手伝いをして多くの利用者確保しようとしたが、コロの影響で病院への出入が出来なくなりました。

② 多くの仲間が回復できるようにする

- ・前年度は途中退寮が5名出てしまったので、カウンセリングを増やして仲間の声を聞き、その人にあったプログラムを提供しました。

③ 職員の確保及びレベルアップ

- ・セミナー等が開かれておらず参加できませんでしたが、オンラインセミナーには参加しました。

④ 多機能型施設建設

- ・名古屋市と連携して地域対策を進めながら、開所に向けて毎週水曜と木曜の会議に参加して準備をすすめました。利用者の福祉サービス受給者証の見直しは利用予定者の一覧表を基幹相談支援センターに提出しました。

2. 利用者の状況

- ・前年度は延べ利用者数が3,951名でしたが今年度は4,715名でした。新規入所は6名で退所者が2名でした。一日平均利用者は13.1人で目標である13人を達成することができました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(平均)
ピートハウス	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
ピート第2ハウス	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
通所(休止)	1	(1)	2	2	(1)	1(1)	1(1)	1	1	1	2	2	14
病院(休止)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	0
利用者延べ数	367	365	390	426	372	376	402	416	403	400	369	429	4715
一日平均利用者	12.3	12.2	13.0	13.7	12.0	12.5	13.4	13.9	13.4	12.9	13.2	13.8	(13.1)
一日平均利用者(前年度)	7.3	8.7	8.2	9.4	11.5	11.8	11.1	11.5	11.5	9.7	13.1	12.3	(10.5)

III. 継続課題

- ・名古屋マックのさらなるプログラムの充実。
- ・多機能型施設の建設と移行の準備（サービスの充実、安定した運営）
- ・スタッフの育成。
- ・安定した利用者確保を目指す広報活動。

TYM ルーム

I. 総括

小牧ワイナリー等の除草作業は滞りなく行うことが出来ました。名古屋マックの利用者で時間が経った仲間 3 名がTYMルームへ移動しました。前年度から始めた女性の利用者が少しずつ増えてきてプログラムも充実してきました。それらの事が要因で利用者数が改善しました。

II. 事業の実施状況

1. 令和 2 年度の目標達成のための具体的な行動

① 高齢者・女性依存症者の回復

- ・ 高齢者やハンディを抱えている利用者には農作業プログラム提供する方向で考えている最中でまだプログラムは出来ていません。
- ・ 女性デイケアはプログラムも充実してきて利用者も安定してきましたが、利用者を増やすために医療関係や行政に広報をしました。女性職員の確保は、プログラム中の女性利用者の中から職員候補を探し多機能型施設で職員を担えるように教育しました。

② 生活面でのサポート

- ・ 行政等から届いた書類を見ても理解できない利用者もいるので内容を解りやすく説明しました。新規の障害者手帳申請、障害者年金申請、生活保護申請、が必要な利用者がいたので同行して支援しました。
- ・ 居宅に移る利用者の引越し援助、アパートの片づけを行いました。

2. 利用者の状況

- ・ 今期の延べ利用者数は 3,423 名。一日平均 10.9 名で行いましたが、前期は延べ利用者数 2,995 名。一日平均 9.7 名でしたのでかなり増えておりますが、マックから 3 名をTYMルームへ移動したことが原因だったと思われます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(平均)
利用者数	13	13	13	13	13	13	14	14	9	14	14	13	156
利用者延べ数	286	288	253	276	277	267	282	282	306	290	305	311	3423
一日平均利用者	11	11.1	9.7	10.2	10.7	10.3	10.4	11.3	11.3	11.2	12.7	10	(10.9)
一日平均利用者(前年度)	9.5	7.6	8.6	9.3	9.2	11.8	9.8	10	10.5	11	9.4	9.4	(9.7)

III. 継続課題

- ・ TYMルームのさらなるプログラムの充実。
- ・ 多機能型施設の建設と移行の準備（サービスの充実、安定した運営）
- ・ スタッフの育成。
- ・ 安定した利用者確保を目指す広報活動。

ピートハウス

I. 総括

年間を通じた入寮率は 97.2%で昨年の 72.5%を大幅に上回りました。自活退寮者は 4 名でした。定期的に入寮者があり、指示退寮者を 2 名に抑えられたことが要因だと思います

II. 事業の実施状況

1. 令和 2 年度の目標達成のための具体的な行動

①平均利用者 10 名を維持する

- ・より高い効果を求めて病院長等への広報をしようとしたのですが、コロナの影響で訪問さえ出来ませんでした。それでも電話をしたりリモートによるメッセージを活かして 11.7 名という数字となりました。
- ・朝の打ち合わせで宿直者が昨夜の出来事をしっかり報告するようにしました。
夜の AA ミーティングをハウスで行う時はスタッフも参加するようにしました。

②生活面でのサポート

- ・ハウスミーティングを月 2 回から 4 回に増やしてハウス内での問題を早期に発見できるようにし、皆で話し合いたいカウンセリングをして解決するようにしました。

2. 利用者の状況

- ・令和 3 年 3 月末日利用者数 11 名（延べ 4, 220 名。一日平均 11.7 名。）で行いました。
令和元年度は延べ 3, 159 名（一日平均 8.7 名）でしたので大幅に上げることが出来ました。指示退寮者が平成 30 年度は 8 名だったのを令和元年度は 3 名。そして今期は 2 名しか出さなかったのが大きな要因となりました。

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ピートハウス	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
ピート第2ハウス	6	6	6	5	6	5	5	6	6	6	6	6	69
入寮者	0	1	0	1	0	1	1	1	0	0	1	0	6
自活退寮	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	1	0	5
指示退寮	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
移動	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
月末継続者	12	12	11	12	11	11	12	12	12	12	12	11	

III. 継続課題

- ・ピートハウスのさらなるプログラムの充実。
- ・多機能型施設の建設と移行の準備（サービスの充実、安定した運営）
- ・スタッフの育成。
- ・安定した利用者確保を目指す広報活動。

社会貢献・社会啓発事業部

I. 総括

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で活動が思うようにできませんでしたが、オンラインを使ってピア・カウンセリングを行い、新たな取り組みとして「ZOOMでしゃべり場企画」、「のぞいてみよう！CIL」、「センターdeショー」、海外のCILとの交流会をZOOMを使って行いました。また無料貸し出しではコロナ禍でも年間340件の車いす貸し出しがありました。

II. 事業の実施状況

1. 令和2年度の目標達成のための具体的な行動

①事業を継続していくために新たな財源を獲得していきます。

- ・センターの活動を紹介していくため Facebook を始めました。年間を通し、19回投稿しました。

②障害当事者のエンパワメントを図ると同時に、当事者やその家族、支援者への情報提供を行います。またAJU自立の家に関わる3つの自立生活センターが連携し、「人権」の根源であるエンパワメントについて学び、その考えをAJU全体に伝えます。

- ・ピア・カウンセリング集中講座：6名、ピア・カウンセリング公開講座：8名、ピア・カウンセリングオンゴーイング講座：延べ31名が参加し、すべてZOOMで行いました。
- ・コロナ禍でなかなか外出できない中、繋がりを継続しようとZOOMを使ってしゃべり場を企画しました。サマリア入居者、卒業生に呼びかけ、延べ35名が参加しました。
- ・サマリアハウス入居者より、ホーム卒業後地元に戻って自立生活センターを立ち上げたいという希望があることから、ZOOMを使って自立生活センターを訪問する企画を立て、愛知県内の自立生活センターを訪問しました。延べ27名が参加しました。
- ・人権プロジェクトでは毎月ミーティングを行い、人権エンパワメントに関する知識、思いを深めました。1月23日と2月24日に座談会を行い、私たちの考える自立生活運動についてAJU自立の家の仲間と共有しました。
- ・車いす無料貸出事業では、コロナ禍の影響もあり貸出件数は減少しましたが、年間340件の新規貸出がありました。また、0歳～9歳への貸出しが全体の25%でした。（下記、グラフ参照）
- ・福祉相談、情報サービス事業では、車いす及び福祉用具の貸し出しや寄付に関する相談を多数受け、車いすの入手方法や社会福祉協議会等をお伝えしました。家族の介助に関する相談を受け、交渉内容を一緒に考え、介助保障協会を紹介しました。名古屋市内の地下鉄構内のエレベーターに関する情報提供を行いました。

③障害者団体をはじめとする様々な団体との協働を通して、社会啓発、行政への働きかけ、国際協力に取り組みます。また、町内会や地域の団体と連携し、地域貢献に取り組みます。

- ・愛知TRYでは活動紹介動画の作成とこれまでステッカーを貼ってもらったお店へのアンケート調査を行いました。
- ・制度勉強会は新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催できませんでしたが、毎月1回制度について情報を伝えるセンターdeショーを開催しました。DPI日本会議が作成している動画などを放送しました。

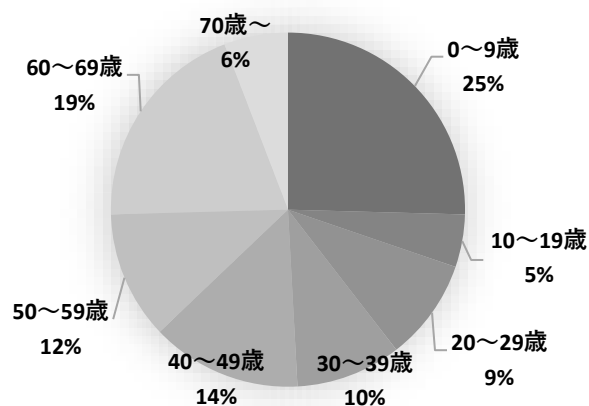
- ・障害者団体の事務局並びにネットワークづくりとして、「愛知県重度障害者の生活をよくする会」「愛知県重度障害者団体連絡協議会」「愛知障害フォーラム（ADF）」の事務局の一翼を担い、学習会等の企画・運営に携わりました。
- ・各障害者団体より、愛知県・名古屋市に対し、コロナ対策への要望活動を行いました。また、愛知県防災会議に参加し、県地域防災計画への意見提起をし、一定の意見を計画に盛り込むことができました。
- ・海外からの研修・視察の受け入れとしては、新型コロナウイルスの影響で移動ができなくなり、研修期間の延びた研修生のニーズに沿った支援を行いました。また、今まで来日された海外の当事者との継続的な交流を目的とし、オンラインにて交流会を開催しました。

2. 無料貸出実績

【1. 貸出実績】

	新規		更新	実績
	個人	団体		
4月	16	16	0	257
5月	11	11	0	223
6月	17	17	0	203
7月	14	14	0	196
8月	22	22	0	177
9月	43	39	4	170
10月	35	34	1	172
11月	68	39	29	181
12月	41	40	1	183
1月	36	22	14	188
2月	19	19	0	184
3月	18	18	0	171
合計	340	291	49	2305
支部合計				885
総集計				3530

【2. 新規個人貸出 年齢別】



Ⅲ. 継続課題

- ・財源確保
- ・自立生活プログラム（コロナのため中止）
- ・バリアフリー交流集会（コロナのため1年延期）
- ・しゃべり場企画、のぞいてみよう！C I Lの参加者募集

アジア障害者支援プロジェクト

I. 総括

日本からタイ事務局へ送られた車いすを、現地の障害者団体やタイ軍隊の協力を得ながらタイの地方都市に車いすを届けました。新型コロナウイルスの影響により日本からタイへの渡航は一度も行えず、日本国内でも様々なイベントが中止となり、活動の機会が激減した一年でした。

2004年からタイを活動拠点としていましたが、令和2年度で法人事業としての活動を終了しました。

II. 事業の実施状況

1. 令和2年度の目標達成のための具体的な行動

(1) タイを中心とした支援を見直し、今後のプロジェクトの活動について検討する1年とします。

- ・タイ事務局に保管されていた車いすを整備し、タイの地方都市5ヶ所へ合計126台寄贈しました。新型コロナウイルスの影響により、当初予定していたカンボジアへの寄贈は行いませんでした。タイ事務局は2021年3月に閉鎖しました。

(2) アジア障害者支援プロジェクトのこれまでの活動を総括します。

- ・2002年アフガニスタン障害者支援から現在までを総括する報告書の作成に取り組みました。記録収集、支援関係者への聞き取り、車いすを寄贈した障害者の生活、スタッフの思い等をまとめましたが、年度内の完成には至りませんでした。事業終了後も報告書の完成を目指します。

(3) アジア障害者支援プロジェクトの活動をより多くの人たちに知ってもらうための取り組みをおこないます。

- ・Facebook ページを活用して情報発信を行いました。ネパール出身のダスキン研修生へ活動内容の説明と交流を行い、帰国される際に簡易電動車いす1台を寄贈しました。新型コロナウイルスの影響により写真展、アジアの障害者が製作した小物の店頭販売、イエローレシートキャンペーンの店頭活動が中止となりました。また、アフガニスタンの障害者団体より学費支援要請があり、募金活動を行いました。
- ・今後の活動について検討
オンライン会議システムを使い、カンボジア障害者団体への聞き取りを1回行いました。ネパール1回とモンゴル2回の合計3回オンライン交流会を行い、アジアの障害者の現状について情報交換に努めました。モンゴルの団体とは交流会を継続して開催しています。

2. タイ事務局車いす寄贈台数 (2020年度)

タイ地方都市名	手動	電動
ヤソトン県 (タイ)	12	0
ピナコンパノム県 (タイ)	10	0
ウボンラチャタニ県 (タイ)	30	0
メーホンソン県 (タイ)	30	0
パトゥンタニー県 (タイ)	44	0
合計	126	0